

神戸市外国語大学客員教員プロフィール

杉下 智彦 (すぎした ともひこ)



職位

客員教授

所属学科・グループ

国際関係学科

専門分野

国際保健・医療、アジア・アフリカ社会開発論

経歴

- 平成 2 年 3 月 東北大学医学部 卒業
4 月 聖路加国際病院 外科レジデント
平成 6 年 4 月 東北大学 医学部 胸部外科医局
平成 7 年 12 月 青年海外協力隊 マラウイ派遣 (国立ゾンバ中央病院外科医長)
平成 10 年 4 月 聖路加国際病院 胸部外科
平成 13 年 6 月 ハーバード大学 公衆衛生大学院 修士課程修了 (公衆衛生修士)
平成 14 年 6 月 ロンドン大学 アジア・アフリカ研究所 修士課程修了 (医療人類学)
平成 14 年 11 月 JICA 専門家長期派遣 (タンザニア)
平成 18 年 8 月 JICA 国際協力専門員 (保健課題アドバイザー)
平成 21 年 10 月 JICA 専門家長期派遣 (ケニア)
平成 25 年 7 月 JICA 国際協力専門員 (保健課題アドバイザー)
平成 26 年 9 月 ソーシャルビジネスグランプリ大賞 受賞
平成 28 年 3 月 第 44 回医療功労賞 受賞
平成 28 年 10 月 東京女子医科大学 国際環境・熱帯医学講座 教授

メッセージ

2010 年より神戸市外国語大学におきまして夏期講座 (社会開発、隔年) を担当しております杉下智彦です。

エチオピア飢饉 (1976 年) をニュースで知り衝撃を受けた私は、東北大学医学部に入学・卒業し、都内および大学病院にて、外科・心臓外科で臨床に従事した後、青年海外協力隊の外科医師としてアフリカのマラウイ共和国に派遣されました。当時、成人の HIV 罹患率が 40% という状況において 3 年間で 3000 例を超える手術を行い、多くの方々を看取りました。まさに野戦病院というべき状況の中で、「病気にならない社会」を創ることが私のミッションになった原体験です。

その後、米国・英国に留学する機会を得て、世界の最前線で活躍する研究者や実務者から学び、国際協力機構（JICA）の長期派遣専門家としてタンザニアに渡りました。以来 20 年余、アフリカを中心に、30 か国を越える国々で技術協力事業に携わってきました。また日本政府を代表して、持続可能な開発目標（SDGs）やユニバーサル・ヘルス・カバレッジの枠組などの国際委員などを務め、G7 サミットやアフリカ開発会議などで、グローバルヘルス政策の中心的な役割を担ってきました。2014 年にはソーシャル・ビジネス大賞、2016 年には第 44 回医療功労賞を頂く光栄にも恵まれました。

客員教授となりました 2017 年には、神戸市外国語大学セミナー「アフリカ / アジアにおける持続可能な未来の創造：国際協力現場から」（2017 年 11 月 22 日）を、2018 年には、神戸市外国語大学セミナー「地球が職場：グローバルなキャリアを語ろう！：世界で活躍する企業や専門家から体験を聞く」（2018 年 11 月 28 日）を開催させていただき、開発援助やボランティア、海外ビジネスの第一線でご活躍されている専門家や企業幹部、在校生に登壇していただき、国際協力の最前線を知る機会となりました。

2019 年には、神戸市外国語大学セミナー「アフリカ：「最後のフロンティア」 - 研究者、活動家、学生が、アフリカの魅力を語り尽くす-」（2019 年 11 月 16 日）を開催し、アフリカで活躍する研究者、国際 NGO、学生の皆さんにご登壇いただき、アフリカの最新情報と魅力を伝える大変良い機会となりました。

今後も、「グローバルな視点を持つ社会変革のリーダーシップ」をテーマに、持続可能な未来の創造を目指した若手人材の育成に努めていきたいと思っております。さらにパワーアップしたイベントや勉強会などを企画していく所存ですので、神戸市外国語大学の学生・教職員の皆様、そして神戸市民の皆様にぜひご参加いただければと願っております。